

医療従事者による 介護施設やグループホームの見学

ご意見まとめ



施設見学 実施日

8月21日(木) グループホームさくら

10月15日(水) ハビリス鷺邑

11月20日(木) デイサービス 憩の家

11月27日(木) デイサービスセンター花はな



見学を通じて学んだこと・感じたこと

運営推進会議について

- 利用者や地域の声を事業所の運営に反映させる事ができれば、利用者にはより良い介護サービスの提供、地域にとっては施設の存在自体が地域福祉の向上につながると思った。
- 運営推進会議に地域の方が協力し参加している。いろいろな情報を提供し、交流を促されている。認知症の方にとって、最も必要な、社会との関りを作ることに非常に役立っている。
- 地域の中で大切な役割を担っていると感じた。また参加されているご家族や地域代表の方が、いきいきと発言、笑顔を見せてくださったのも印象的だった。

見学を通じて学んだこと・感じたこと

施設について

- 介護サービスを利用する場合、利用者は多くの事業所と契約を結び施設ごとに違うスタッフに慣れていかねばならない。しかし「小多機」「看多機」は、一つの事業所で様々なサービスを利用出来るうえ、なじみのある職員にケアしてもらえるため、環境の変化に戸惑う高齢者の方や認知症の方には非常に適していると思った。
- 地域のイベントに参加することが、入居者さんの生活リズムになっていたり、社会との接点になっている。
- 家族の負担も大きいため、デイが家族に寄り添うことや、相談を受ける機会もケアマネ同様あると感じた。
- 「認知症対応型のデイとして、少人数体制のもと、一人一人に寄り添ってもらうことを期待している。『本人らしさを持続させたい』そんな思いでこの施設を選んだ」という家族の話が印象的だった。

課題・改善できそうなこと（気づき）

意見（現状・課題）

- ・ 地域住民との「顔の見える関係」は施設と地域の距離を縮めるが、現状はまだ十分ではない。
- ・ 認知症が正しく認識されていない現状があり、当事者・家族の不安が大きい。
- ・ 施設だけにコミュニティ形成や情報発信の役割を担わせるのは負担が大きい。
- ・ コロナ禍以降、外部の人の施設内立ち入り制限が続き、地域との協働が難しい。
- ・ 多くの施設で人手不足が発生し、業務の煩雑さや事故発生が懸念される。
- ・ 家族の問題がデイサービスだけでは支えきれない事例がある。
- ・ 年末年始の休業により「デイサービスは命綱」である利用者・家族への支援が途切れてしまう。

課題・改善できそうなこと（気づき）

意見・提案 （改善策・今後の方向性）

- ・ 他地域の活動や社会資源を知り、何から始めるか具体的に計画を立てて啓発していく。
- ・ 施設を「情報発信・コミュニティ形成の拠点」として活用し、高齢期の暮らし方や認知症になっても地域で暮らす方法を伝える場にする。
- ・ 近隣施設でグループを作り、持ち回りで「交流会」や運営推進会議を開催し、負担を軽減する。
- ・ 外部協力者や地域の社会資源を積極的に利用することで開催のハードルを下げる。
- ・ 地域のボランティアの力を活かすため、「認知症支え隊」など行政が支援内容を積極的にアピールする。
- ・ MCSなどのSNSを活用した医療介護ネットワークの整備で情報共有を迅速にする。
- ・ デイサービスの記録とお薬手帳を一体化したツールの活用を検討する。
- ・ ケアマネや他事業所を交え、見守りの目を増やす体制づくりが必要。
- ・ 年末年始などの休業時も、緊急時の連絡・対応が途切れない体制整備が必要。
- ・ 認知症の基礎知識やサポート資源が分かりやすい研修・冊子を整備し、家族が情報を得やすい環境を整える。

できること・今後に活かそうなこと

職種	今後できそうなこと
介護職	<ul style="list-style-type: none">● 介護や認知症について、講座を地域向けに開催する● 認知症理解の普及を継続して行う
医療職	<ul style="list-style-type: none">● 交流会で講座発表、健康・お薬相談など知識面で協力● 薬局でポスター掲示● 介護施設の情報発信や地域連携を後押し● 患者へ施設情報を提供● 退院調整でデイの様子も共有

生成AI分析による主な論点

生成AIを用いて、アンケート結果の内容から、どのようなことに関心が集まっているのか次のように分類した。なお、1つの意見に対し、複数の論点が該当することがあるため、分類件数は、アンケート件数とは一致しない。

